

# 令和元年度 モデル事業 取組 神門通りうさぎプロジェクト

## 事業のポイント

- ・出雲大社平成の大遷宮の完遂をきっかけに、新たな地域経済循環を図る持続可能な商店街振興の仕組みづくりの検討がスタート。
- ・商店街の将来を担う若手事業者達が中心となり門前町らしさを兼ね備えた新たな取組へ。

## 基本情報

- ・WG名 : 神門通りうさぎプロジェクト
- ・活動テーマ : 地域内での資金循環の促進
- ・モデル事業名 : ブランディングによる商店街振興の仕組みづくり
- ・事業概要 : 持続可能な商店街の仕組みづくりに向けた商店街の自主財源の確保及び商店街組織の検討

## 課題

- ・年間600万人の参拝客に比べ神門通りを訪れる人が少ない。
- ・神門通りを歩くこと自体が楽しくなる店舗、商品、仕掛けが少ない。
- ・神門通りの継続的な魅力づくりを行う活動財源の確保と各店舗の売上拡大を図りたい。
- ・遷宮後の人材を育成していきたい。

## そこで、

出雲大社に縁の深い「うさぎ」を新たなコンテンツとしてブランディングし、街歩きを兼ねた地域商品を開発することで、観光客や地元客が歩いて楽しい、買い物や飲食が楽しい「神門通り・商店街」にするための仕掛けづくりを、若手経営者が中心となって考える。

## 初年の取組内容

- ・「うさぎ」と「縁結び」をキーワードに30歳前後の女性をターゲットとした「うさぎプロジェクト」のブランディングのための、「出雲うさぎ」シンボルマークを制作し商標登録を行った。
- ・神門通りを楽しく歩く仕掛けとして、各店舗が工夫を凝らした「うさぎモニュメント」を設置し、神門通り＝うさぎのイメージの定着を図った。
- ・「出雲の日」に併せて、「出雲うさぎ」シンボルマーク入りの福袋販売や「うさぎモニュメント」を巡るスタンプラリーを実施し、うさぎプロジェクトの認知度向上を図った。

## 取組成果

- ・神門通りおもてなし協同組合の若手事業者が中心となってワーキング会議を重ね、うさぎプロジェクトの企画・立案などを積極的に行った。
- ・プロジェクト内で商品開発、販売促進、広報戦略などの役割分担を明確化し、持続可能な活動が実施できる体制が構築できた。
- ・「出雲うさぎ」シンボルマークを各店舗の独自商品開発に活用することで、新たな自主財源確保の道筋ができた。
- ・「出雲の日」スタンプラリーなどの企画により、観光客だけではなく地域住民への周知、理解、親近感を深めることにつながり、地域一体となった商店街振興になった。
- ・「うさぎモニュメント」を活用した町歩きの仕掛けやうさぎ関連商品の開発など、365日神門通りを楽しむ企画が進行中。

## 活動の様子



「出雲うさぎ」福袋



うさぎスタンプラリー



うさぎモニュメント



ワーキング開始

## ワーキンググループ構成員の声

- ・うさぎプロジェクトが進行していく中で、モニュメントの設置やスタンプラリーにおいて、近隣店舗の更なる協力が不可欠だと再認識しました。  
「出雲の日」には3000人弱の方々にお越しいただき、皆様に必要とされる事業であると確信しました。
- ・うさぎプロジェクトに参加させていただき、アイデアを構築していく楽しさや、新しい貴重な経験をさせていただいていると思っています。  
神門通り活性化に向け動き出した最中のコロナ禍ではありますが、メンバーの更なる知恵を出し合い出雲の魅力を発信していきたいです。
- ・プロジェクトを進める過程において、主に若い組合員のメンバーが実働部隊となり活躍していたのが目を引いた。新しい発想、スピード感のある行動で短期間でも大きな成果をあげることができたと思う。  
今後もこれからの神門通りを支えていく若い組合員の参加をお願いし、更なる活性化を目指す。